



令和2年度野洲市教育委員会
点検・評価報告書
(評価対象：令和元年度事業)

令和2年11月

野洲市教育委員会

— 目次 —

第1章 教育委員会の点検・評価制度の概要	1
1 経緯	1
2 学識経験を有する者の知見の活用	1
3 対象事業の考え方	2
第2章 事業の点検・評価	2
1 点検・評価の方法	2
2 評価委員会の概要	3
3 点検・評価結果	3
4 野洲市教育振興基本計画施策体系図	7
5 点検・評価シート	8
関係例規	21

第1章 教育委員会の点検・評価制度の概要

1 経緯

平成18年12月に教育基本法が改正され、更に平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正されました。

これにより、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

本報告書は、**地教行法第26条**の規定に基づき、令和元年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

本報告書により、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たします。

◆地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 学識経験を有する者の知見の活用

地教行法第26条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会が自ら行った点検・評価の結果について、野洲市教育委員会事務評価委員会（以下「評価委員会」という。）を組織して、学識経験を有する者3名から意見をいただきました。

野洲市教育委員会事務点検評価委員会委員

（敬称略）

第1号委員 三村 益夫 （みむら ますお）

第2号委員 中島 智栄子 （なかじま ちえこ）

第3号委員 橋 円 （たちばな まどか）

※野洲市附属機関設置条例・別表「委員の構成」(P22)参照

3 対象事業の考え方

野洲市教育委員会では、平成28年度から「第2期野洲市教育振興基本計画」に沿って各種施策を展開しています。

この基本計画は、平成28年度から令和2年度までの5年間を計画期間として、地方教育の中心的な担い手である教育委員会が、本市の実情に合わせた教育施策を展開していくために策定したものです。

上記計画に位置づけられている施策を構成する事業の中で、評価の対象事業については、野洲市総合計画（ロードマップ）で、事業の到達目標や年度ごとの進捗状況の管理を行っている13の事業としました。

第2章 事業の点検・評価

1. 点検・評価の方法

評価委員会により、対象事業の決定及び対象事業の実施状況の聞き取りを実施し、事業ごとの課題や今後の方針などを明らかにする中で事業の評価を行いました。

評価基準については、内部評価（事業実績の具体的内容、目標の達成状況）を参考に、内部評価の評価基準と同様、その「進捗度」と今後の「方向性」に分けて以下の5段階の評価基準によって総合評価を行いました。

☆進捗度：計画通りに事業が進捗しているか

- 5：達成・完了
- 4：予定通り進行中
- 3：着手したが予定より遅延
- 2：統合もしくは縮小すべき
- 1：中止等

☆方向性：今後の事業の方向性の判断

- 5：拡充して継続すべき
- 4：現行通り継続すべき
- 3：見直しや改善をすべき
- 2：未着手
- 1：休止もしくは廃止すべき

2. 評価委員会の概要

第1回 野洲市教育委員会事務評価委員会

日 時：令和2年6月26日（金） 14時～15時

場 所：市役所別館 別館会議室

議 題：①点検・評価の対象事業について
②点検・評価の方法について
③今後のスケジュールについて

第2回 野洲市教育委員会事務評価委員会

日 時：令和2年8月5日（水） 13時30分～17時

場 所：市役所本館 第4会議室

議 題：①点検・評価前の打合せ
②点検・評価対象事業のヒアリング
③ヒアリング結果協議

第3回 野洲市教育委員会事務評価委員会

日 時：令和2年10月13日（火） 13時30分～15時

場 所：市役所別館 別館会議室

議 題：①点検・評価結果の確認について
②点検・評価報告書(案)について

3 点検・評価結果

(1) 評価結果

対象事業13の「進捗度」と「方向性」についての評価

☆進捗度：計画通りに事業が進捗しているか

4：予定通り進行中 …13事業

☆方向性：今後の事業の方向性の判断

4：現行通り継続すべき…13事業

(2) 委員からの主な評価（意見）

① 地域子ども教室（子どもの居場所づくり）事業

- ・各学区の特色や実態を勘案しながら、「子供の居場所づくり」や「地域子ども教室」を開催することはとても意義のある事業と考える。今後もさらなる活性化を図ってほしい。
- ・実施するにあたり、関係者やボランティアの方々の連携と協力は不可欠です。今後も継続して欲しい。

② 小中学校施設保全（大規模改修、非構造部材耐震対策）

- ・計画に則り、着実に実施できている。加えられている変更も、事実に基づき適切に判断されたものである。工期の遅延等は十分予測の範囲内と考えられる。
- ・今後も安全に工事を進め子どもたちの学びの場の環境を整えて欲しい。

③ 通学路の交通安全

- ・環境は刻々と変化してゆくので、運用の精度を落とさないことを念頭に置き、継続することが望ましい。
- ・今後も、予期せぬ事故等が発生しないように、地域住民の声をしっかりと聴きながら、新たな視点で見直しを検討してほしい。

④ 特別支援教育、生徒指導等の充実

- ・近年教員に求められる役割の多様化が、その職業的質の低下を引き起こす原因のひとつと思われる。専門家との協力こそ、職業的役割を効果的に発揮する助力となると考える。
- ・SSW等の専門職が的確に配置され、充実した取り組みが推進されている。今後もさらなる充実を目指して取り組んでほしい。

⑤ 総合学習等の充実

- ・学校づくり、地域連携、児童が体験を獲得すること、英語学習を充実させること、教員への支援など、それぞれが互いに補完したり、影響を与えながら学校現場を構築する力となっているため、引き続き継続が望ましい。
- ・小学校での英語教育については、主体的にコミュニケーションを図ることにとどまらず、学習活動を通して日本や外国の文化について学ぶこと事についても大切に考えて欲しい。

⑥ 学校ICT教育環境の整備

- ・指導者の力量アップの研修等や、コロナ感染拡大の中で、リモートオンライン学習が喫緊の課題になっているため、早急に環境整備に取り組んでもらいたい。
- ・専門性の高い設備を導入することによって、教員が児童生徒と向き合える時間が増えたことや働き方改革につながることは、教育環境整備と教員の指導力向上の側面から高く評価ができる。
- ・児童生徒が家庭でも積極的に活用できるようになるためには、新しい学習モデルを構築していく必要がある。

⑦ 成果発表の場の提供拡大と情報発信の支援

- ・社会情勢への対応から、一部の講演が実施できなかったことは残念であるが、文化芸術は市民にとって不可欠な心の栄養であるから、安全に配慮しながら、実現可能な形を探りつつ、継続されることを期待する。

- ・事業に対し補助金を交付し活動を支援した取り組みはより充実した活動内容を積極的に実施するものとして今後も取り組んでいただきたい。

⑧ 生涯スポーツの推進

- ・本市の総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者までがスポーツに親しみ交流でき、地域の活性化にも貢献している。また、両クラブ、その他スポーツ団体による活発な活動が展開され、市民の多くが参加している。この流れを継続し、より一層推進していただきたい。
- ・運動すること自体に興味を持たない方を対象としたきっかけが必要ではないか。

⑨ 第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会の開催

- ・実施に向けての準備が計画的に進行している。コロナ対応の為、今後の大会スケジュール調整など不透明な材料はあるが、必要な対応を継続されたい。

⑩ スポーツ施設の改修・整備

- ・長期間にわたる施設運用の為、老朽化は避けて通れない。修繕、計画的改修、整備などの課題には継続的に取り組む必要がある。
- ・スポーツ施設の修繕箇所について、市民活動における安心・安全のために緊急度・優先度を精査した上で、助成金制度等を活用し、計画的に改修・整備している。

⑪ 文化施設の改修・整備

- ・ネーミングライツの獲得により、文化施設の改修・整備のための費用捻出を実現した。市民及びスポンサーへの責任は、魅力的な運営によって果たされることから、創意工夫のある計画をさらに進められたい。
- ・既存の文化施設の修繕箇所について、市民活動における安心・安全のために緊急度・優先度を精査した上で、計画的に改修・整備を実施されている。

⑫ 博物館企画展開催事業

- ・今回企画された展示では、琵琶湖の恩恵を受けながら暮らす、地域民の歴史が貴重な資料とともに示された。毎回、多様な着想が企画展の面白さにつながっている。
- ・地域の歴史や文化に関して年齢層を幅広く捉え、興味関心が持てる場の提供や、工夫に今後も取り組んでいただきたい。

⑬ 永原御殿の国史跡指定と保存整備

- ・調査、研究、保存はもとより、市民への発信にも努め、市民の財産である本史跡の活用にも努めている。
- ・国史跡の指定を受けられたことは、将来にわたり保存整備を図るおおきな第一歩を踏み出せたと考える。地域や市をあげて、国の補助事業も活用しながら推進していただきたい。

評価結果一覧表

NO	対象事業名	担当所属	内部評価		委員評価	
			進捗度	方向性	進捗度	方向性
①	地域子ども教室 (子どもの居場所づくり) 事業	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
②	小中学校施設保全 (大規模改修・非構造部材耐震対策)	教育総務課	4	4	4	4
③	通学路の交通安全	学校教育課	4	4	4	4
④	特別支援教育、生徒指導等の充実	学校教育課 ふれあい教育 相談センター	4	4	4	4
⑤	総合学習等の充実	学校教育課	4	4	4	4
⑥	学校ICT教育環境の整備	学校教育課	4	4	4	4
⑦	成果発表の場の提供拡大と 情報発信の支援	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑧	生涯スポーツの推進	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑨	第79回国民スポーツ大会 第24回全国障害者スポーツ大会 の開催	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑩	スポーツ施設の改修・整備	生涯学習 スポーツ課 スポーツ施設 管理室	4	4	4	4
⑪	文化施設の改修・整備	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑫	博物館企画展開催事業	歴史民俗 博物館	4	4	4	4
⑬	永原御殿の国史跡指定と保存整備	文化財保護課	4	4	4	4

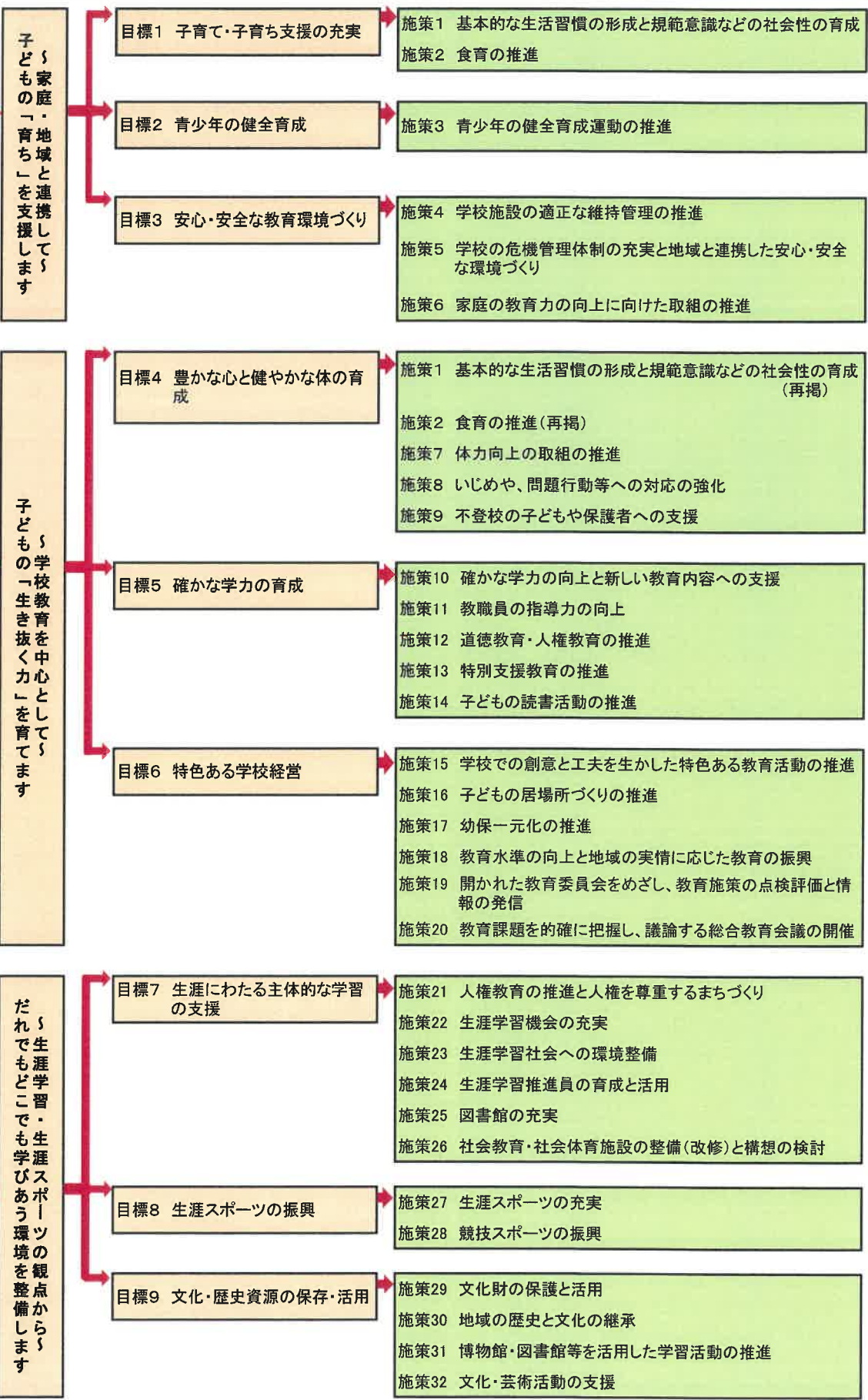
野洲市教育振興基本計画施策体系図

基本理念

一人ひとりが大切にされ、おとなも子どもも学びあうひとづくり・まちづくり
愛と輝きのある教育のまち・野洲

施策の基本方向・目標

施策



①令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(2)青少年の健全育成		
教育振興基本計画	目標2 青少年の健全育成	生涯学習スポーツ課	
施策	施策3:青少年の健全育成運動の推進 施策16:子どもの居場所づくりの推進		
事業名	地域子ども教室(子どもの居場所づくり)事業		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	2,061千円	1,803千円
	国・県の補助を受け、「子どもが健やかに育つための活動」を行う各学区の地域教育協議会を支援する。		
事業全体の達成目標	7学区全てのコミセンにおいて自主的かつ活発に実施されている、子どもの居場所づくりのための各種催しに対し、多数の子どもの参加を促し、地域と家庭の連携を進める。		
令和元年度計画事業概要	①7学区全てで「子どもの居場所づくり事業」「地域こども教室」が実施されるよう支援を行う。 ②各学区の特色や実態を勘案しながら、事業内容等を検討し、事業の活性化が図られるよう働きかける。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容・目標の達成状況など	①地域教育協議会へ支援を行い、7学区全てで、各コミセンを核に、地域のボランティアスタッフの協力を得て、「子どもの居場所づくり事業」として「地域こども教室」を開催できた。 ②「地域こども教室」では、体験学習を中心に、子どもたちに様々な学習活動メニューが提供され、その場が地域で子どもたちを見守る大人との交流の場にもなっている。 ※R1年度:357回 6,543人		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき
内部評価の理由	7学区すべてのコミセンで子どもの居場所づくり推進のための事業が実施されるよう支援を行うことができた。今後も各学区の特色や実態に即した事業内容等を検討し、事業を進めていく必要がある。		
令和元年度事業委員会評価	・子どもの居場所づくり事業が、年数をかけて実施された結果、地域住民や児童生徒に広く認知されるに至ったことはある種の成果である。しかしながら、この事業を通じて目指すものの核心は、参加する児童生徒の成長であり、それを通じて大人が成長するという教育効果の波及ではないだろうか。地域の人材をイベントの請負人にしておくのか、それとも共に活動する仲間育て上げるのか、再考されたい。手始めに、補助金の交付にあたり、報告される内容に、教育的成果の視点が反映されるように投げかけてはどうか。 ・子どもたちを健全に育成していくために必要なことは、子ども自身の絶対的自尊感情をしっかりと高めていくことが欠かせない。これはありのままの自分を好きになることである。 この自尊感情を高めるためには、安心した居場所をつくり、愛情をもって接するとともに、子どもたち同士が豊かにつながり、お互いに認め合うことが大切である。 また、様々な体験を通してやり切った達成感を味わったり、共感しあうことが重要である。そういう意味で、各学区の特色や実態を勘案しながら、「子供の居場所づくり」や「地域子ども教室」を開催することはとても意義のある事業と考える。今後もさらなる活性化を図ってほしい。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき

②令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(3)学校教育の充実	
教育振興基本計画	目標3 安心・安全な教育環境づくり	教育総務課
施策	施策 4: 学校施設の適正な維持管理の推進 施策 5: 学校の危機管理体制の充実と地域と連携した安心・安全な環境づくり	
事業名	小中学校施設保全(大規模改修・非構造部材耐震対策)	
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額
	4,834,631千円	1,144,527千円
	令和元年度決算額	962,371千円
事業全体の達成目標	①小中学校施設の適正な維持管理及び長寿命化を図るため、「野洲市小中学校施設保全計画」に基づき国の交付金事業採択を進める。 ②市の財政状況を見極めた上で、老朽化対策が必要な学校施設について、順次、事業化を決定し、大規模改修工事等を実施する。	
令和元年度計画事業概要	中主小学校及び野洲北中学校ともに、不足する教室数を補うべく校舎を増築するとともに、事前に必要な仮設校舎を設置し、既存校舎の大規模改修工事を実施する。(中主小学校は体育館も大規模改修あり。)また、適切に工事を進捗させるべく、工事監理業務委託を発注する。	
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容・目標の達成状況など	中主小学校及び野洲北中学校の校舎増築・大規模改修等の実施設計業務をH30年6月に発注。それぞれ令和元年6月及び7月に業務が完了した。 中主小学校及び野洲北中学校の仮設校舎賃貸借契約を10月に契約し、それぞれ第1期工事を完了し使用を開始した。また、増築・大規模改修工事の契約を12月に締結し、予定通り工事を進めている。	
	令和元年度	進捗度
	4: 予定通り進行中	方向性
		4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	工事現場着手の初年度であり、今後も計画工程とおりに進捗させて、中主小学校及び野洲北中学校の教育環境の改善を図らなければならない。	
令和元年度事業委員会評価	・計画に則り、着実に実施できている。加えられている変更も、事実に基づき適切に判断されたものである。工期の遅延等は十分予測の範囲内と考えられる。 ・子どもたちの健全育成には、“生活環境”を整えることが重要で、とりわけ教育環境を整備することは基本であり、適切な維持管理することが求められている。現在、各施設の現状を的確に把握し、保全計画を立案し、国の交付金を活用しながら、ライフコストを考慮して推進されているので、今後も計画に沿って着実に推進してほしい。 ・目的達成に向けて事業を実施されていることは大きく評価できます。今後も安全に工事を進め子どもたちの学びの場の環境を整えて欲しい。	
	令和元年度	進捗度
	4: 予定通り進行中	方向性
		4: 現行どおり継続すべき

③令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(3)学校教育の充実		
教育振興基本計画	目標3 安心・安全な教育環境づくり	学校教育課	
施策	施策 5:学校の危機管理体制の充実と地域と連携した安心・安全な環境づくり		
事業名	通学路の交通安全		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	円	239千円	200千円
事業全体概要	①野洲市通学路交通安全プログラム(H27年3月策定版)に基づき、通学路交通安全対策推進会議で交通安全対策必要箇所を検証し、H28年度プログラムとして更新した。このプログラムに基づき、より安全な通学路の安全確保を目指す。 ②推進会議は、全体会議を年間2回、また学区(6学区)ごとに重点箇所の合同点検及び対策実施後の効果の把握や検証を行う。		
事業全体の達成目標	継続的かつ適切な交通安全対策を講じることにより、ハード事業とソフト事業の両面で通学路の安全確保を図る。		
令和元年度計画事業概要	①継続的に通学路の安全を確保するため、野洲市通学路交通安全対策推進会議を開催し、関係者による合同点検を継続的に実施するとともに、交通安全対策実施後の効果の把握や検証等を行い、プログラムの更なる改善や充実を行う。 ②①の取組をPDCAサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性の向上を図る。 ③①②の結果は、ホームページ等で公表する。 (P)合同点検の実施や対策の検討等 (D)道路管理者や警察等による対策の実施 (C)対策効果の把握・検証(交通安全対策推進会議等) (A)プログラムの更なる対策の改善・充実		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容・目標の達成状況など	●推進会議の開催状況 ・R1.7.4第1回推進会議 ・R1.10.30篠原学区合同点検 ・R1.10.9野洲学区合同点検 ・R1.9.25北野学区合同点検 ・R1.10.23中主学区合同点検 ・R1.10.2三上学区合同点検 ・R1.10.7祇王学区合同点検 ・R2.1.30第3回推進会議 ※学区別合同点検が第2回推進会議 ●対策必要箇所とハード対策完了箇所の推移 ・対策必要箇所数…H29:86箇所 H30:101箇所 R1:113箇所 ・ハード対策完了箇所数…H29:40箇所 H30:51箇所 R1:55箇所 危険箇所のハード対策は順次進めているものの、点検により毎年新たな対策を必要とする箇所も増えていることから、全ての課題解消には至っていない状況 ●R2年度プログラムのまとめ ハード対策とソフト対策を両輪に、通学路の安全確保を推進する。 特に、R2年度では、大津市で起きた園児を巻き込む事故や高齢者ドライバー等による運転誤りによる事故等、予期せぬ事故が起きていることから、新たな視点で危険箇所の洗い出しを行った。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき	
内部評価の理由	PDCAサイクルを回し課題の解決や状況の改善を図る必要があるため、継続して実施する。		
令和元年度事業委員会評価	・通学路の安全管理について、PDCAサイクルがうまく機能しており、実効性が高い。また、環境は刻々と変化してゆくの、本事業が完遂されることはない。したがって、運用の精度を落とさないことを念頭に置き、継続することが望ましい。 ・子どもたちの通学路の安全を確保するためには、ハード面とソフト面の対策が必要で、現在、ハード面では、地域の通学状況をしっかり把握し、危険箇所の察知とその改善を持続的に進められている。また、ソフト面では各学校での安全教育はもちろんのこと、スクールガードや少年補導(委)員、地域安全委員等とも連携して、日々の通学路の安全確保を的確に推進されている。今後も、予期せぬ事故等が発生しないように、地域住民の声をしっかりと聴きながら、新たな視点で見直しを検討してほしい。 ・推進会議などでは点検などを繰り返し実施し、子どもの安全のために苦慮されていることはよくわかります。今後も市の通学路交通安全プログラムを常に見直しながらかつ継続して取り組んで欲しい。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき	

④令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(3)学校教育の充実		
教育振興基本計画	目標4 豊かな心と健やかな体の育成 目標5 確かな学力の育成	学校教育課 ふれあい教育相談センター	
施策	施策 8:いじめや問題行動等への対応の強化 施策 9:不登校の子どもや保護者への支援 施策13:特別支援教育の推進		
事業名	特別支援教育、生徒指導等の充実		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	66,316千円	64,383千円
	①障がいのある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を進め、学校教育の充実を図るため、特別支援教育担当の割愛教員の配置や小学校における特別支援教育支援員の重点配置を行う。 ②不登校児童・生徒への支援を図るため、心のオアシス相談員の重点配置により、校内における支援体制を充実させ、家庭・保護者との連携を密にする。 ③いじめやいじめの疑いに対し、早期発見により迅速な支援や指導を行う。		
事業全体の達成目標	①障がいのある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な対応に努めるとともに、特別支援教育コーディネーターマネジメント加配の増員や講師化などによる体制の充実を図る。 ②魅力ある学校づくりや初期対応を丁寧に行うことにより不登校の未然防止に努める。また適応指導教室の活用等により学校復帰の支援を行う。 ③心のオアシス相談員を継続する。 ④SSW(スクールソーシャルワーカー)を配置する。 ⑤いじめ問題に係る委員会を設置し、いじめ事象の未然防止や早期発見・対応を図る。		
令和元年度計画事業概要	①H30年度の取組を検証し、特別支援教育的視点と福祉的視点の両面から、保護者を含む児童生徒等への支援体制の充実を目指す。 ②具体的には、特別支援教育コーディネーター・マネジメント加配やSSWの効果的な配置を検討・推進する。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容・目標の達成状況など	①特別な教育的なニーズのある子どもたちの増加や多様化に対して、早期発見と早期対応を行うため、全ての校園に巡回相談員を派遣し、延べ183回の巡回相談を実施した。 ②教育支援委員会において、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援について検討し、「個別の教育支援計画」の作成について助言することができた。 ③特別支援教育推進協議会では、関係部局・機関や保護者会等において、野洲市の現状や課題について見直し、特別支援教育の充実のための方策について協議を行った。 ④市内に配置している5名のスクールソーシャルワーカーのケース会議への積極的な参加や、各学校での教育相談体制への助言等により、関係機関との連携や福祉的視点での児童生徒への支援が充実した。また、スクールソーシャルワーカーを統括・指導するスクールソーシャルワーカースーパーバイザー1名を配置し、定期的な配置校への訪問等で、それぞれの課題について整理し助言することにより、各スクールソーシャルワーカーの資質向上を図ることが出来た。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	継続して取り組む必要がある事業であるため。		
令和元年度事業委員会評価	・本事業の達成において、巡回相談員並びにSSW,同SVの存在は必要不可欠である。近年教員に求められる役割の多様化が、その職業的質の低下を引き起こす原因のひとつと思われる。専門家との協力こそ、職業的役割を効果的に発揮する助力となると考える。 ・子どもたちはそれぞれ様々な特性や性格、能力を持っている。その子の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を進め、豊かな心と健やかな体を育成することが大切であり、割愛教員の配置や心のオアシス相談員や特別支援教育マネジメント加配、SSW、スーパーバイザー等の市費教員を充実することが必要不可欠である。また、関係機関におけるスクールカウンセラーの配置も重要である。現在、本市においては的確に配置がされ、充実した取り組みが推進されている。今後も、さらなる充実を目指して取り組んでほしい。 ・巡回相談員の派遣については、保育士の質の向上に向けて検討が必要とのことでしたが、それぞれの園での取り組みを検討し廃止するしないの判断をしていただきたい。 ・こころのオアシス相談員の配置により、より一層の支援の充実をはかっていたきたい。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑤令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(3)学校教育の充実		
教育振興基本計画	目標6 特色ある学校経営	学校教育課	
施策	施策15: 学校での創意と工夫を生かした特色ある教育活動の推進		
事業名	総合学習等の充実		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	10,539千円	9,382千円
	市内全小中学校で各校の特色を生かしながら、総合的な学習の時間や特別活動、教科の授業等を工夫し、児童生徒の「人間力」を育てる教育を推進する。 具体的には、様々な分野で活躍されている人物や優れた芸術等に直接触れたり、地域の特色や人材の活用等によって豊かな学びができる機会の充実を図る。		
事業全体の達成目標	①学校の特色を活かした「元気な学校づくり事業」の充実と拡大 ②地域連携による人材活用を図る「学校応援団事業」の充実 ③H29年度新規の「オヘア鑑賞事業」の継続と発展 ④小学校英語による効果的なコミュニケーション能力・意欲の育成		
令和元年度計画事業概要	①元気な学校づくり事業の市内全小中学校が参加する体制の継続と、幼稚園の参加数を増やす。事業の充実・拡大を図るとともに、広く地域に公表し、意見を聞く場を充実させる。 ②中主中学校区の施設分離型の小中一貫教育をモデルとして、他の中学校区への推進を検討する。 ③学校運営協議会設置努力義務化にともない、学校応援団事業の充実をめざす。 ④オヘア鑑賞事業の継続開催と、広く「芸術鑑賞事業」として他分野の鑑賞も含め検討する。 ⑤英語教育支援員を活用した授業を実践し、子どものコミュニケーション能力や意欲の向上を図る。 【新学習指導要領への移行期間】 ⑥スクール・サポート・スタッフの導入を図り、教職員の働き方改革を進める。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容・目標の達成状況など	①元気な学校づくり事業は、市内全小中学校9校と幼稚園2園の参加により、各校園の掲げた「チャレンジ」を目標に特色ある校園づくりを進め、公開発表会でその成果を発表した。 ②中主校区では、幼小中共通の教育目標を掲げ、施設分離型の幼小中一貫教育を進め、「中主学区カレンダー」を作成し、その取り組みを校区に発信した。 ③学校応援団活動を地域学校協働活動に拡大し、学校、家庭および地域住民相互の連携・協働を推進した。 ④オヘア鑑賞事業は計画通り12月に開催して、全小学校709名の児童が鑑賞し好評であった。 ⑤小学校6校に英語教育支援員を配置し、小学校での外国語活動で、英語専科教員や担任と英語教育支援員との複数指導を行い、児童のコミュニケーション意欲・能力の向上を図った。 ⑥全小中学校にスクール・サポート・スタッフを導入し、教員と仕事分担をし、業務改善を進めた。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき	
内部評価の理由	継続して取り組む必要があるため		
令和元年度事業委員会評価	・「元気な学校づくり事業」を例にとれば、学校ごとの異なるニーズに対応できる自由度の高い支援策である。各校が複数年継続する中で、それぞれの校風をより一層醸成している。母校から地域、そしてわが町への愛着につながる。「郷土を愛する子どもたち」の育成に向け、ブレのない事業である。本事業の特色は、学校教育を支える総合的な支援である。学校づくり、地域連携、児童が体験を獲得すること、英語学習を充実させること、教員への支援など、それぞれが互いに補完したり、影響を与えながら学校現場を構築する力となっている。引き続き継続が望ましい。 ・学校教育を充実させるためには、各校の特色を生かしながら、総合的な学習に時間や特別活動、教科の授業等を工夫し、児童生徒の「人間力」を育てることが重要である。また、保護者や地域とも連携し、「学校応援団事業」を「地域学校共働活動」に拡大し、豊かな学びができる機会の充実を図ることも必要である。今後も、本市においてしっかりと取り組みが推進していくように日々努力をお願いしたい。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき	

⑥令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(3)学校教育の充実		
教育振興基本計画	目標 5 確かな学力の育成	学校教育課	
施策	施策 10: 確かな学力の向上と新しい教育内容への支援 施策 11: 教職員の指導力の向上		
事業名	学校ICT教育環境の整備		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	611,488千円	95,039千円	251,836千円
	①校務用パソコンの更新、大型表示装置、デジタル教科書等の導入によりICT教育の充実を進める。 ②児童生徒用端末を活用した授業については、モデル校での実践検証をさらに進める。		
事業全体の達成目標	①市内全小中学校で、デジタル教科書と大型モニターを使った視覚的な提示により、子どもの理解や思考の支援に活用するなどの授業効果を高める。 ②モデル校での児童生徒用端末を活用した授業実践により、コミュニケーションツールとしての効果を検証する。		
令和元年度計画事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●新規 PC教室端末等機器更新 [リース料] 統合型校務支援システム導入 [リース料] 校内NW環境整備 [事業委託料] ●継続事業 モデル校(三上小・野洲中)タブレット導入 [リース料] 中主小・中主中PC教室、備品管理システム [リース料] 教職員用PC、サーバ設備等 [リース料] 		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	<ul style="list-style-type: none"> ●新規 PC教室端末等機器更新・入替 459台(51台×9校) 夏季休業期間中に実施。 <p style="margin-left: 20px;">統合型校務支援システムの導入 教員の多忙化を解消し、教育の質の維持向上を図る観点から、すべての小中学校に統合型校務支援システムを導入した。</p> <p style="margin-left: 20px;">児童生徒一人一台端末整備 児童生徒1人1台の端末配備完了に向け、校内ネットワークの整備を図る。 (繰越事業)</p>		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	国の方針により今後も引き続き学校ICT環境の整備を進めていく必要がある。		
令和元年度事業委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・設備や機器の充実とともに、運用に向けての施策も着実に進行している。 ・学習指導要領では学習内容が資質・能力の3つの柱によって構造的に示される。3つの柱とは「①知識・技能」「②思考力・判断力・表現力等」「③学びに向かう力・人間性である」②③は教え込んで身につくものではない。自分自身で主体的に学習にのぞみ、その中で深く考えるような学習を通して身につけていく。この学習がアクティブラーニングである。 これらのことを踏まえると、各教科の中に情報活用能力育成等の学習の基盤となる資質・能力を育成し、アクティブラーニングするためにはICT環境は欠かせない。 このICT環境は各地によって格差が大きく、その指導者の力量アップの研修等も課題である。コロナ感染拡大の中で、リモートオンライン学習が喫緊の課題になっている。早急に環境整備に取り組んでほしい。 ・専門性の高い設備を導入することによって、教員が児童生徒と向き合える時間が増えたことや働き方改革につながることは教育環境整備と教員の指導力向上の側面から高く評価ができると思います。 また、児童生徒が家庭でも積極的に活用できるようになるためには、新しい学習モデルを構築していく必要があると思います。 		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑦令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(4)生涯学習・生涯スポーツの推進		
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援 目標9 文化・歴史資源の保存と活用	生涯学習スポーツ課	
施策	施策22:生涯学習機会の充実 施策32:文化芸術活動の支援		
事業名	成果発表の場の提供拡大と情報発信の支援		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	2,780千円	1,880千円
事業全体概要	①日頃の創作活動の成果発表の場の拡大のため、図書館などの公共施設のスペースを積極的に提供する。 ②コミセンとの連携により、身近な発表と交流の場づくりの支援を実施する。 ③市の広報紙によるイベント周知やマスコミへの情報提供を実施する。 ④特に人通りや集客力の高い公共施設、スペースを積極的に提供する。		
事業全体の達成目標	①市民の日頃の創作活動の成果発表の場として図書館、コミセンを積極的に活用する。 ②イベントの周知をマスコミ等を通じて強化する。 ③駅前広場、店舗スペースなどを発表の場、イベントに活用する。		
令和元年度計画事業概要	①文化ホール(小劇場)のホールを活用して「野洲文化芸術祭」を開催する。 ②市内施設を利用し、音楽のまちづくり事業を支援する。 ③文化振興のため、主催事業として優れた舞台技術の公演の鑑賞機会の提供、共催事業として関西フィル等の公演を継続開催し、その他の公演を実施する。 ④野洲文化ホール教室受講生、さざなみ音楽教室受講生の発表の場として継続して文化事業を企画し、運営面を支援する。 ⑤市広報紙、催物総合チラシ、ホームページを活用するなど、イベント情報の周知の場を提供しながら利用人数・稼働率の向上をめざす。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的な内容目標の達成状況など	①文化ホール(小劇場)等で「野洲文化芸術祭」を開催 ・冠巻巻開:10/18(コミセンやす研修室)・舞台発表:11/2~11/4(大ホール)・作品展示:10/30~11/4(小劇場) ・ワホイント教室:11/1(コミセンやす研修室) ②市内施設(図書館ホール)を利用した「音楽のあるまちづくり事業」実行委員会に補助金を交付し、活動を支援した。(12回開催) ③文化振興のため、共催事業として高嶋ちさ子や清塚信也といった話題性のあるアーティストを招聘し、関西フィル、京フィル、海外バレエ、落語等の継続開催やアイドルコンサートを2日間連続で開催することなどにより、駅やホール周辺の『にぎわい』と『野洲市』の知名度向上につなげた。 ④各種教室受講生の発表会をそれぞれのホールで計画していたが中止(新型コロナウイルス感染症対策)。 ⑤市広報紙・ホームページ、催物総合チラシ、新聞広告等を活用しイベント情報を発信し周知を行った。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき	
内部評価の理由	年度末に新型コロナウイルス感染症対策で複数の公演を中止・延期としたが概ね予定どおり事業を実施した。		
令和元年度事業委員会評価	・公共施設を積極的に提供し、市民の文化活動を支援してきたことは情報として市民に浸透している。今後の課題は、そこに参画する市民をどう増やし、循環させていくかということではないか。また、文化芸術活動に触れる機会を提供という点においては、招聘する人材の選定において、市民の興味をよく引き出している。社会情勢への対応から、一部の講演が実施できなかったことは残念であるが、文化芸術は市民にとって不可欠な心の栄養であるから、安全に配慮しながら、実現可能な形を探りつつ、継続されることを期待する。 ・子どもたちの豊かな人間性を育むためには、「本物との出会いや体験」は欠かせない。感性の鋭い子どもの時期に様々な文化や芸術に触れ、また自分の創作活動の成果を発表していくことは、生涯にわたって豊かな人生を創造していく力の源流である。本市においては、きめ細かな取り組みが推進されている。今後も取り組みをより一層推進していただきたい。 ・コロナの影響で苦慮された点は多々あったかと思いますが、市民の文化振興のために大きく貢献されていることは高く評価できるものと思います。 ・事業に対し補助金を交付し活動を支援した取り組みはより充実した活動内容を積極的に実施するものとして今後も取り組んでいただきたい。 ・ホールなどの設備の老朽化に関しては、市民が安心して使用できる設備整備を望みます。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき	

⑧令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(4)生涯学習・生涯スポーツの推進		
教育振興基本計画	目標8 生涯スポーツの振興	生涯学習スポーツ課	
施策	施策27:生涯スポーツの充実 施策28:競技スポーツの振興		
事業名	生涯スポーツの推進		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	6,051千円	7,721千円
	①総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者までがスポーツに親しみ交流でき、地域の活性化にも貢献しており、指導者の育成や自立にむけた支援を実施する。 ②各種スポーツ団体と連絡調整を行い、スポーツ活動の裾野拡大を図る。		
事業全体の達成目標	①子どもから高齢者までが日常的にスポーツを行う場として「ほほえみ」「さざなみ」両総合型地域スポーツクラブが市民生活に密着している。 ②両クラブ、その他スポーツ団体による活発な活動が展開され、市民の多くが参加している状況になる。		
令和元年度計画事業概要	①各スポーツ関係団体が連携協力ができる体制づくりに向けての取り組みに努める。 ②「ほほえみ」「さざなみ」両総合型地域スポーツクラブへの支援を行い、健康づくりや生きがいづくりを推進していく。 ③登録制のスポーツボランティア制度を立ち上げ、各種スポーツイベントで活躍していただけるよう研修会を実施する。		
平令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	①②各スポーツ関係団体と、ストックウォーキング(11/23)やびわ湖若鮎駅伝(障がい者駅伝大会、12/22)を開催し、健康づくりや生きがいづくり、障がい者スポーツ啓発の推進ができた。また、「さざなみ」「ほほえみ」両スポーツクラブに補助金等の支援を行った。 ③令和2年5月に実施予定の聖火リレーに必要なボランティアは、県が委託事業として実施しているため、関係各所へ登録してもらえよう働きかけた。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	総合型地域スポーツクラブや各スポーツ関係団体が活発な活動が行われており、子どもから高齢者、障がい者が健康づくりや生きがいのための生涯スポーツの普及が図れた。 各事業は、概ね予定どおり実施した。		
令和元年度事業委員会評価	・スポーツが市民生活に浸透するよう、機会の創出や関係団体への支援が図れている。 ・本市の総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者までがスポーツに親しみ交流でき、地域の活性化にも貢献している。また、両クラブ、その他スポーツ団体による活発な活動が展開され、市民の多くが参加している。この流れを継続し、より一層推進していただきたい。 ・聖火リレーに関して、早々から計画準備にご尽力いただいたものと実感しています。コロナで来年度に持ち越されましたが、市民が心をついに聖火リレーが実施されることを願うばかりです。 ・運動すること自体に興味を持たない方を対象としたきっかけが必要ではないかと思えます。スポーツは競技性だけでなく、心身の健康の維持増進のためにも必要であるという視点を持てる機会が増える取り組みを今後も期待します。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑨令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(4)生涯学習・生涯スポーツの推進		
教育振興基本計画	目標8 生涯スポーツの振興	生涯学習スポーツ課	
施策	施策28: 競技スポーツの振興		
事業名	第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会の開催		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	42千円	42千円
	令和6年度に滋賀県が開催地となる第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会において、本市が会場となる卓球、バスケットボール(成年女子)の運営等を実施する。		
事業全体の達成目標	本市で開催する競技の会場運営、交通整理、接待等の業務全般を、県や競技団体等の関係機関と調整を図りながら計画を進め実施する。		
令和元年度計画事業概要	①開催する競技種目、会場の準備等に伴い、県や競技団体等の関係機関と調整を図りながら計画を進める。 ②中央競技団体からの現地視察に係る日程調整や受入の対応を行う。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	①②内定している2種目(卓球・バスケットボール競技)について、中央競技団体による現地視察を受け、視察時の指摘事項等への対応について関係機関と調整を進めた。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	本市で開催する競技の会場運営、交通整理、接待等の業務全般を、関係機関等と調整を図り、概ね予定どおり実施した。		
令和元年度事業委員会評価	・実施に向けての準備が計画的に進行している。コロナ対応の為、今後の大会スケジュール調整など不透明な材料はあるが、必要な対応を継続されたい。 ・本市で開催する競技の会場運営、交通整理、接待等の業務全般を、関係機関等と調整を図り、概ね予定どおり実施できている。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑩令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(4)生涯学習・生涯スポーツの推進		
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援 目標8 生涯スポーツの振興	生涯学習スポーツ課 スポーツ施設管理室	
施策	施策26:社会教育・社会体育施設の整備(改修)と構想の検討 施策27:生涯スポーツの充実 施策28:競技スポーツの振興		
事業名	スポーツ施設の改修・整備		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	13,079千円	13,098千円
	既存の各スポーツ各施設については、安心・安全な利用を促進するため、経年劣化等による危険箇所等の改修・整備を行う。		
事業全体の達成目標	既存のスポーツ施設が、市民にとって安心・安全な活動場所として有効活用されることをめざす。		
令和元年度計画事業概要	既存のスポーツ施設の修繕箇所について、市民活動における安心・安全のために緊急度・優先度を精査した上で、助成金制度等を活用し、計画的に改修・整備を実施する。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	総合体育館旧温水プール棟の解体撤去工事の実施設計を行った。また、市民グラウンド 南ベンチの修繕や総合体育館の電気設備の修繕など緊急性の高いものから整備を行った。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき
内部評価の理由	利用者が安全・安心して施設を利用できるよう、緊急性・必要性の高いものから優先し修繕を行った。今後も適切な維持管理が必要である。		
令和元年度事業委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間にわたる施設運用の為、老朽化は避けて通れない。修繕、計画的改修、整備などの課題には継続的に取り組む必要がある。 ・既存のスポーツ施設の修繕箇所について、市民活動における安心・安全のために緊急度・優先度を精査した上で、助成金制度等を活用し、計画的に改修・整備している。 ・学区によってはスポーツ施設が身近になく、施設の偏りがあるように感じる。気軽にスポーツを楽しみたい人や健康増進を目的として運動・スポーツを行いたい人に対する環境整備が望まれる。 ・施設設備の整備に当たっては、優先順位を考え着手されている。温水プールの跡地の利用方法は、市民のために有効利用できるように考えていただきたい。 ・市民が屋外でのスポーツを楽しめる設備の整備も期待したい。 		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき

⑪令和元年度実施事業対象 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	豊かな人間性をはぐくむまち …(4)生涯学習・生涯スポーツの推進		
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援 目標9 文化・歴史資源の保存・活用	生涯学習スポーツ課	
施策	施策26:社会教育・社会体育施設の整備(改修)と構想の検討 施策32:文化芸術活動の支援		
事業名	文化施設の改修・整備		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	3,913千円	3,810千円
	既存の文化施設について、安心・安全な利用を促進するため、経年劣化等による危険箇所等の改修・整備を行う。		
事業全体の達成目標	既存の文化施設が、市民にとって安心・安全な活動場所として有効活用されることをめざす。		
令和元年度計画事業概要	①既存の文化施設の修繕箇所について、市民活動における安心・安全のために緊急度・優先度を精査した上で、計画的に改修・整備を実施する。 ②個別計画の策定に向け、文化施設のあり方を検討する。 ③ネーミングライツ料を維持管理経費として修繕等に活用する。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	①利用者が安全・安心して施設を利用できるよう、緊急性・必要性の高いものから優先し修繕を行った。 ②文化施設のあり方について検討を継続している。 ③ネーミングライツ料を活用し、文化ホールの女性トイレ2ブースを洋式化した。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	利用者の安全・安心の確保に努めた。今後も適切な維持管理を行いながら、施設・設備の改修に向けた計画を具体化していく必要がある。		
令和元年度事業委員会評価	・ネーミングライツの獲得により、文化施設の改修・整備のための費用捻出を実現した。市民及びスポンサーへの責任は、魅力的な運営によって果たされる。創意工夫のある計画をさらに進められたい。 ・既存の文化施設の修繕箇所について、市民活動における安心・安全のために緊急度・優先度を精査した上で、計画的に改修・整備を実施されている。 ・新野洲市民病院の建設に伴って、駅前における文化施設の活用・拡充についてさらなる検討が望まれる。 ・次年度に引き続き文化施設の利用推進のための取り組みが継続して推進され、施設設備の必要な措置を講じていることがよくわかります。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑫令和元年度実施事業対象 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	美しい風土を守り育てるまち …(5)歴史的遺産の保護・継承		
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援 目標9 文化・歴史資源の保存・活用	歴史民俗博物館	
施策	施策22:生涯学習機会の充実 施策29:文化財の保護と活用 施策30:地域の歴史と文化の継承 施策31:博物館・図書館等を活用した学習活動の推進		
事業名	博物館企画展開催事業		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	2,287千円	2,053千円
	野洲市の歴史と民俗に関わる文化遺産を企画展にて紹介し、地域の歴史を発信して広める。		
事業全体の達成目標	市民に、地域の歴史や文化に興味を持ってもらえるような学習の場を提供する。また、銅鐸博物館が地域資料の保存・公開の場所となる。		
令和元年度計画事業概要	湖南地域を中心に、近江の四季に応じた人びとの暮らしと魚介類の関係に焦点をあてた「人と魚の歴史学(仮称)」を計画し、10月～11月の開催に向けて準備を進める。また、考古・歴史・民俗・美術工芸等、様々な分野のテーマ展や講演会を計画し、順次開催する。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	令和元年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき
内部評価の理由	①地域の魅力あるテーマに焦点をあてた展示や講演会を計画どおりに実施できた。 ②多くの市民に郷土の豊かな歴史や文化を知ってもらった。		
令和元年度事業委員会評価	・今回企画された展示では、琵琶湖の恩恵を受けながら暮らす、地域民の歴史が貴重な資料とともに示された。毎回、多様な着想が企画展の面白さにつながっている。 ・広く市民に周知する観点では、図書館がブックトーク等により児童生徒に発信する様に、教育の場と連携・発信するような機会は設けられないだろうか。 ・現在、わが国には約6000館の博物館が存在している。博物館は「資料の収集・保管、展示による教育、調査研究」を一体として行う機関であり、人々が文化・歴史・自然を学ぶ場である。扱っているものは先人たちが守り伝えてきた「宝物」で、戦後、博物館は「社会教育のための施設」として位置づけられ、人々の「学習の場」としての性格を強めてきた。しかし、近年は地域の学習拠点として、子どもたちへの参加体験型の学習機会の提供や、ボランティア等の協力を得た地域ぐるみの活動、地域活性化のための知恵袋としての活動、社会との活発なコミュニケーションに基づく活動が広がっている。 本市においても、博物館のイメージをダイナミックに変える活動を期待したい。 ・地域の歴史や文化に関して年齢層を幅広く捉えて、興味関心が持つ場の提供や工夫を今後でも取り組んでいただきたい。		
	令和元年度	進捗度	方向性
	4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき	

⑬令和元年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	美しい風土を守り育てるまち …(5)歴史的遺産の保護・継承		
教育振興基本計画	目標9 文化・歴史資源の保存・活用	文化財保護課	
施策	施策29:文化財の保護と活用 施策30:地域の歴史と文化の継承		
事業名	永原御殿の国史跡指定と保存整備		
事業全体概要	総事業費見込み	令和元年度予算額	令和元年度決算額
	千円	2700千円	2,700千円
	徳川家康・秀忠・家光、三代の将軍専用宿館である永原御殿跡について、地権者・地元江部自治会・祇王学区の理解と協力を得て、国史跡の指定をめざし、将来にわたり保存、整備を図る。		
事業全体の達成目標	①当面の目標として、関係者への説明を行いながら、指定範囲の確定、整備基本計画・調査報告書の作成等を進め、地権者の同意を得て国史跡の指定を申請する。 ②将来的には、国・県の補助を受けながら、指定地の地籍調査、公有化を図り、発掘調査の実施に基づく整備実施計画を策定し、保存整備事業を行い、史跡公園として公開を図る。		
令和元年度計画事業概要	①調査成果を取りまとめた総合調査報告書を印刷製本し、地権者の同意が得られた範囲について、国へ意見具申を行い、年度内の史跡指定をめざす。		
令和元年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	①永原御殿跡の本質的価値を明らかとした「永原御殿跡総合調査報告書」を作成した。 ②地権者同意が得られた本丸と二の丸59筆31,975.44㎡について、文部科学大臣に意見具申書を提出し、令和2年3月10日国史跡の指定を受けた。 ③御殿本丸の維持管理に努め、妓王まちづくり推進協議会とともに永原御殿跡調査成果講演会を開催した。(令和2年2月、参加者135名)		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
内部評価の理由	令和元年度の目標とした総合調査報告書の作成と国史跡の指定を達成した。事業は緒に就いたばかりであり、さらに地域の協力と国の事業補助を得ながら、公有化、保存活用計画書策定、発掘調査、活用事業を進めていく必要がある。		
令和元年度事業委員会評価	・「永原御殿総合調査報告書」により、本史跡の歴史的重要性をつまびらかにし、公正に継承すべき情報をていねいに積み上げている。また、調査、研究、保存はもとより、市民への発信にも努め、市民の財産である本史跡の活用にも努めている。 ・徳川家康・秀忠・家光、三代の将軍専用宿館である永原御殿跡について、令和2年3月10日国史跡の指定を受けられたことは、将来にわたり保存整備を図るおおきな第一歩を踏み出せたと考えられる。地域や市をあげて、国の補助事業も活用しながら推進していただきたい。 ・国史跡の指定達成については、調査報告及び報告会などを実施したことが大きな成果につながったのではないかと推測します。今後も身近なものとして市民に周知されるよう期待します。		
	令和元年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

関係例規

◆野洲市附属機関設置条例（抜粋） 平成30年3月28日・条例第1号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき設置する附属機関に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第2条 市は、法令若しくはこれに基づく政令又は他の条例（以下「法令等」という。）に定めがあるもののほか、市の執行機関（以下「執行機関」という。）に別表第1に掲げる附属機関を置く。

（所掌事務）

第3条 前条の附属機関が所掌する事務は、それぞれ別表第1の所掌事務の欄に掲げるとおりとする。

（委員）

第4条 第2条の附属機関は、それぞれ別表第1の委員の定数の欄に掲げる人数の委員をもって組織する。

2 前項の委員は、それぞれ別表第1の委員の構成の欄に掲げる者のうちから同表の附属機関の属する執行機関の欄に掲げる執行機関が委嘱し、又は任命する。

3 前項の規定により、委嘱され、又は任命された委員の任期は、それぞれ別表第1の委員の任期の欄に掲げる期間とし、再任されることを妨げない。

4 第2項の規定により、委嘱され、又は任命された委員が欠けた場合における当該附属機関の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（専門委員等）

第5条 執行機関は、第2条の附属機関に専門委員その他の臨時の委員を置くことができる。

（部会等）

第6条 執行機関は、第2条の附属機関に部会その他の合議制の組織を置くことができる。

（法令等の定めによる附属機関）

第7条 市が執行機関に置く附属機関のうち法令等の定めにより置くものは、別表第2のとおりとする。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、第2条の規定により市が執行機関に置く附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、当該附属機関の属する執行機関が別に定める。

付 則

（施行期日）

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1

附属機関の属する執行機関	執行機関に置く附属機関の名称	所掌事務	委員の定数	委員の構成	委員の任期
教育委員会	野洲市教育委員会 事務評価委員会	教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価を行うために必要な事項等の調査審議等に関する事務	3人以内	(1) 市内の小学校又は中学校において校長の職を経験した者 (2) 学識経験を有する者 (3) 前2号に掲げる者のほか、教育委員会が特に必要と認める者	2年

◆野洲市教育委員会事務評価委員会規則

平成30年3月30日・教育委員会規則第12号

(趣旨)

第1条 この規則は、野洲市附属機関設置条例(平成30年野洲市条例第1号)第8条の規定に基づき、野洲市教育委員会事務評価委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営その他必要な事項に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員長及び副委員長)

第2条 委員会に委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

(関係者の出席等)

第4条 委員長は、会議の議事に関し必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は関係資料等の提出を求めることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において処理する。

(その他)

第6条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

付 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。